

2020年5月18日(月)

外国語活動Ⅰ

講義内容 第3章 小学校の外国語授業実践と授業づくり

○「人を育てる」小学校教員の一環として行われる外国語活動・外国語

- ☞学校で行われる英語教育と英会話学校で行われる英語教育はどこが違うのか？
- ☞授業づくりの際に「この授業は子ども育てることになるのか」と考えてみるのが大切。
- ☞学校全体の教科・領域の目標や内容を考えた上で、外国語・外国語活動が担うものはなんだろうか？

1. 学習到達目標・指導計画

1.1 年間指導計画

- (1) 3つの資質能力を踏まえる
 - ☞第4章で詳しく考えてみます
- (2) 年間指導計画を立て、単元配列を行う
- (3) 目指す生徒像を設定する
 - ☞教育実習の際に、最初に校長先生が学校の「目指す生徒像」を話す理由は何か？
- (4) 指導内容(シラバス)を作成する
 - 場面シラバス
 - 機能シラバス
 - タスクシラバス
 - 内容シラバス
 - 技能シラバス
 -
- (5) 題材・言語材料を設定する
 - ☞どのような題材(内容や場面)で言語材料(文法や語彙)を教えるかということ。英語の学習では常に題材と言語材料の二つが柱になっている。中学校の理科を考えた場合、ざっくり言うと内容を教えた方が良いと思う。しかし、英語の場合は内容と言語材料の二つに配慮しないとイケない。

1.2 単元計画

- (1) 単元構想
- (2) 単元の「終末モデル」の提示

☞単元の最後にどのようなことができるようになっていなければならないかを示す。それを目標に単元の計画を立てる。「逆向き設計」の授業。

☞児童生徒も教員も同じ地図をもって目的地に向かうことが大切。今日の授業はどの段階にある授業なのかを児童と共有する。

1.3 1時間の授業構成

☞「発話を急がずに十分なインプットを行うことを大切に、・・・」(p.51)

☞第二章の言語習得理論を思い出して欲しい。インプットの重要性が指摘されていた。

☞ということは教師も十分なインプットを与えることができる力を持っている必要がある。このことをしっかりと胸に刻んでおいて欲しい。

2. 外国語活動・外国語で大切にしたいこと

(1) 「ことば」の学習としての外国語活動・外国語

- ①「ことば」は人と人をつなぐ媒体、道具として大切にしたい。
- ②「相手のことを良く聞く」ことを大切にしたい。
- ③「自分の言いたい、伝えたいこと」を大切にしたい。
- ④「必然性がある、意味のやり取り」を大切にしたい。
- ⑤「自己表現」を通して自己肯定感、他者への関心を高めさせたい。

(2) コミュのケーション力のとらえ方と目指す児童像

☞児童像をしっかりと指導案に書き込んでくることが大切

(3) 楽しい外国語活動の要素

- ①安心できる授業であること。
- ②所属感を感じることができる授業であること。
- ③成功感を感じることができる授業であること。
- ④自己表現ができる授業であること。

3 授業づくり5つの視点と授業の振り返りのポイント

3.1 授業づくり5つの視点

- ①コミュニティづくりの視点
- ②オリジナリティの視点
- ③グループ（ペア）ワークの視点

④自己表現力を高める視点

⑤既習事項を生かす視点

☞①～⑤を第二章で学んだ第二言語習得理論と関連付けて考えてみてください。

3.2 授業の振り返り

授業振り返りのチェック項目

①リラックス感

②結果としての繰り返し

③個々の表現の場

④自己表現の場

⑤子どもの側の達成する目標

⑥体験・動き

⑦既習事項を生かす

⑧活動の流れやつながり

⑨内容

⑩負荷がある

4 ALT とのチーム・ティーチングによる授業づくり

☞56 頁にある表をしっかりと理解しておく

5 ICT を活用した授業づくり

5.1 ICT 活用の効果と注意すべき点

(1) 期待できる効果

(2) 注意すべき点

6 文字の指導

☞学習指導要領をしっかりと読み、文字指導の目標や内容を理解する。

☞英語の文字は難しいということを理解したうえで指導に当たる。

6.1 文字指導の主な留意点

①文字指導を急がない

②聞く時間を十分にとる

③アルファベットの文字を聞いて分かる

④アルファベットの文字が書ける

- ⑤名称と音があることが分かる

6.2 文字指導の例

7 小中連携の工夫

7.1 小中間の指導観の共有とカリキュラムの連携

7.2 小学校教員と中学校教員の連携

☞64頁の表3-2を頭に入れて欲しい。

- ①年間指導計画等の相互提供
- ②授業参観
- ③研修会
- ④教材・教具の共有活用
- ⑤ティーム・ティーチング
- ⑥ALTなどの小中共同活用

7.3 学習評価における小中連携

7.4 児童生徒の交流

- (1) 小学生による中学校の授業参観
- (2) 児童生徒の交流授業
- (3) 中学生からの「ビデオレター」「クリスマスカード」
- (4) 小学生から「Thank you カード」